

2019 年度 春夏学期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科 評価委員会



# 授業改善アンケート調査結果

## 1. 授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。講義科目を対象に授業内でマークシート用紙の配布・回収により実施していたが、2016年度にグローバル30人間科学コース（以下、G30）、2017年度には、講義科目以外の演習、実習、研究も対象科目となった。講義科目以外の科目についてはKOAN上での回答を行っていたが、2019年度春夏学期からは、全科目を対象科目に、マークシート用紙による回答形式を採用している。実施期間は以下の通りである。

2019年度春夏学期アンケート回答期間：2019年7月4日～8月6日

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義、演習、実習、研究を含む全科目である。講義科目と講義以外の回収率は以下の通りである。なお、講義科目および講義以外の科目について、対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳を記す。受講登録者数に対する回収率は、76.4%であった（2018年度春夏学期：講義科目75.4%、講義以外の科目21.1%）。

### 2019年度春夏学期授業改善アンケート 講義科目 対象科目数・回答数

		対象科目数	回答数
学部科目	共通科目	7	395
	行動系科目	32	442
	社会人間系科目	19	351
	教育系科目	21	369
	共生系科目	20	235
大学院科目	共通科目	15	189
	その他	77	451
G30科目		20	125
計		211	2535

回収数 2535 / 受講登録者数 3319 = 回収率 76.4%

※1 基礎科目は、行動・社会人間系・教育・共生系科目に割り振られている。

2 受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに2010年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

## 2. 授業改善アンケートの結果

前回まで、全科目をアンケート実施対象科目とし、講義科目についてはマークシート方式を、講義以外の科目（演習、実習、研究）については KOAN 上で回答する方式を採用していたが、KOAN 上での回答率の低さを改善すべく、今回よりすべてマークシート方式に変更した。2019 年度春夏学期の授業改善アンケートの回収率は 76.4% となり、2018 年度春夏学期の 75.4% からの上昇は 1 ポイントにとどまった。ただし、以前 KOAN 上で実施していた、講義科目を除く演習・実習科目に限ってみれば、回答率は 83%（履修者数 556 人、回答者数 463 人）であり、前回の回答率 21.1% から大幅に改善されたといえる。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問 10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」（1～5 の範囲で数値が高いほど高評価を意味する）については、平均が 4.24（2018 年度春夏学期 4.18）であり、前年度よりも高い値となった。学系別集計によると、教育系および英語コース（G30）の「非常に良かった」と回答している学生の割合が、前年度よりも 8.9～17.2 ポイント上昇している。教育系科目は、問 9「この授業で学問的知識が身についたと思いますか」についても前年度より 12 ポイントほど上昇しており（2018 年度春夏学期 15.5%、2019 年度春夏学期 27.1%）、専門的知識の修得を求める学生の要望に応えた結果が満足度にも反映していると考えられる。

満足度に関する問 10 以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問 1 の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が 87.2% となり、2018 年度春夏学期 84.9% よりもさらに 2.3 ポイント上昇しており高い値となった。また、問 2 の「この授業の予習・復習にあてた 1 週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」については経年変化を見ているが、今回「ほとんどなし」と答えたのは 29.5% となり、これまでも改善傾向にあったが、前年度の 39.6% から大幅な改善をみせた（2016 年春夏学期 41.8%/秋冬学期 50.64%、2017 年春夏学期 40.2%/秋冬学期 46.1%、2018 年度春夏学期 39.6%/秋冬学期 50.9%）。学系別集計によれば、もともと値の低い G30 を除く全学系（大学院を含む）の値が改善されていることから、各授業において対策・工夫がなされていることが窺われるとともに、効果が発揮されているといえる。

また、問 3「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に対しては「適切」であるとの回答が 69.7% とこちらも 4.1 ポイントほど上昇している（2018 年度春夏学期：67.6%）。授業内容の理解度を尋ねる問 4「授業内容はよく理解できましたか？」、授業方法の工夫等を尋ねる問 8「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていきましたか？」のいずれもが前年度より向上していることから、授業で扱う題材選定の適切さや、授業の進行形式の改善が、問 9 の学問的知識の修得および問 10 の満足度の向上に寄与しているといえる。

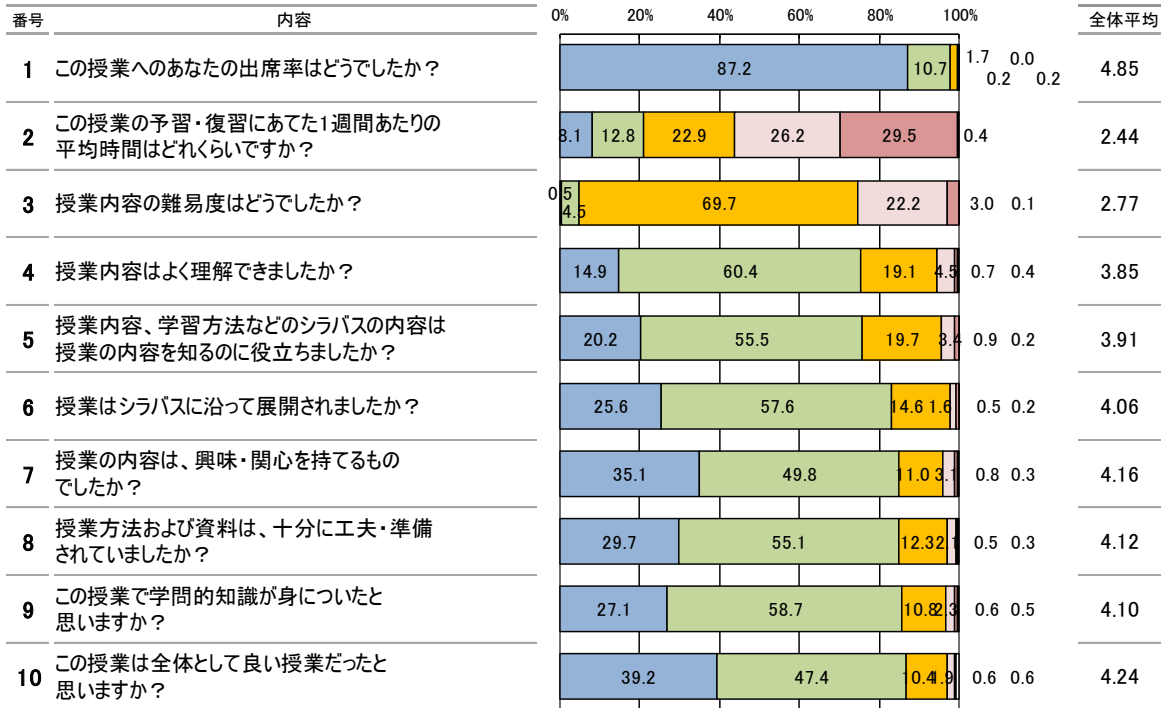
以下より、2018 年度春夏学期の授業改善アンケート結果の詳細を示す。

※学系別集計（p. 6）については以下のように集計している。

- ・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。
- ・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。

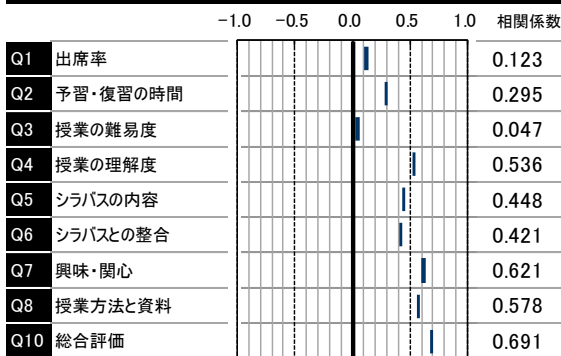
- ・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会・教育・共生科目に割り振られている。
- ・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。
- ・各学系によって1科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

<h1>全体集計</h1>	履修者数	3319
	回答数	2535
	回答率	76.4%



グラフ内数字は回答率(%)

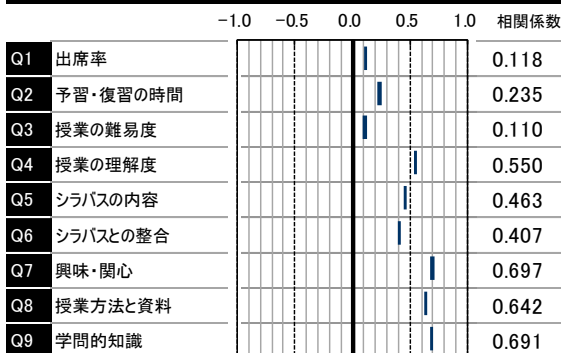
【Q9との相関】



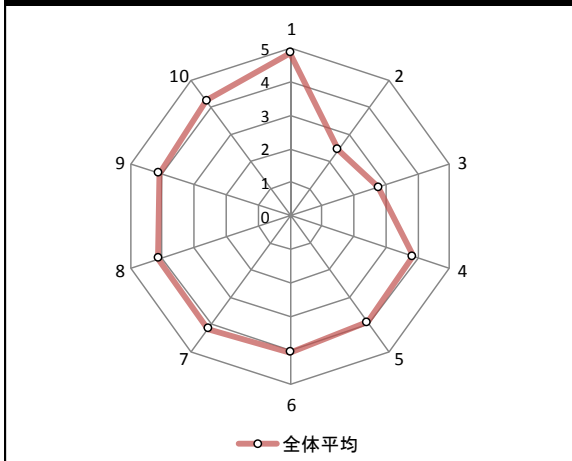
回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易すぎる	
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	不明(無回答を含む)
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	良くなかった	良くなかった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいのかの参考値として下さい。相関係数の「-」は計算不能を示します。(例：回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど)

【Q10との相関】



【質問別得点】

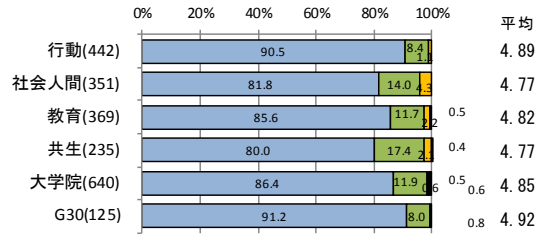


## 学系別集計【全体】

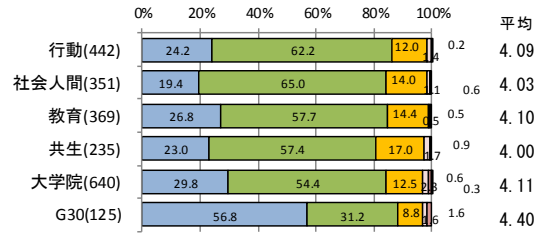
※グラフ内数字は回答率(%)

回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	不明(無回答を含む)
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	良くなかった	

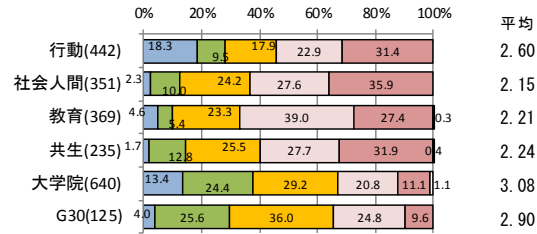
### 1. この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



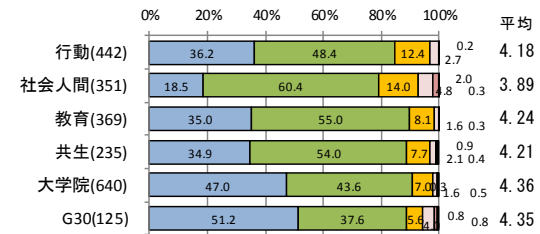
### 6. 授業はシラバスに沿って展開されましたか？



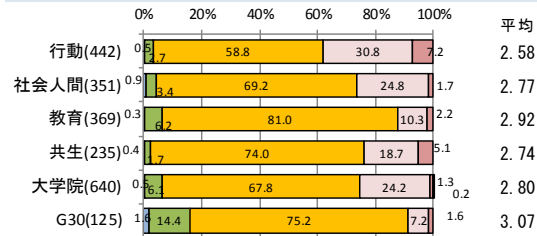
### 2. この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれくらいですか？



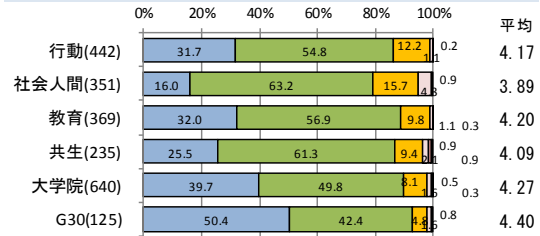
### 7. 授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



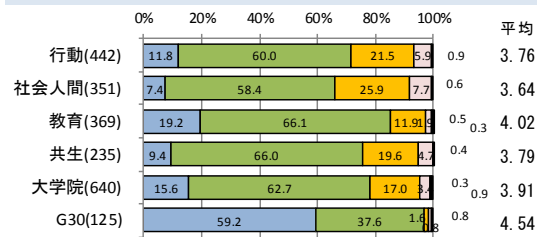
### 3. 授業内容の難易度はどうでしたか？



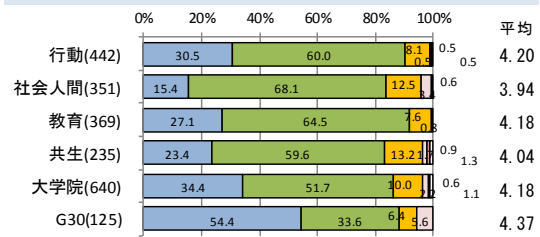
### 8. 授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？



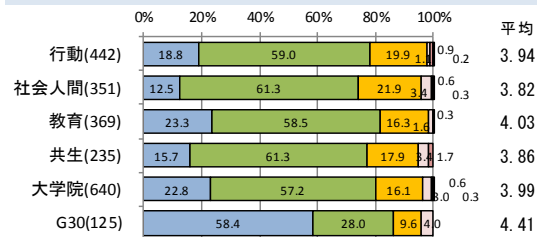
### 4. 授業内容はよく理解できましたか？



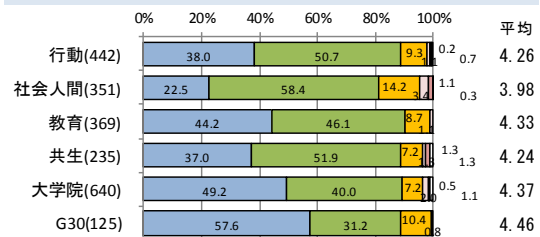
### 9. この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



### 5. 授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



### 10. この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



<満足度上位の科目>

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ）。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 211 科目のうち、有効回答数が 10 以上の科目は 65 科目であり、平均値 4.22 を上回ったのは 30 科目であった。

2019 年度春夏学期講義科目

満足度上位の科目一覧

【学部】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	学校経営学	52	4.65
2	比較社会学	10	4.60
2	Issues in Gerontology	15	4.60
4	教育心理学 II	29	4.59
5	応用認知心理学演習 I	14	4.57
5	教育文化学演習 I	11	4.55
6	Popular Culture in Japan	15	4.53
7	共生の技法 II	12	4.50
8	学校社会学	31	4.42
8	国際協力学 I	12	4.42

【大学院】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	15	4.73
1	教育工学特講 I	11	4.73
3	行動統計科学特講 I	10	4.70
3	人間科学基礎実習	21	4.62
4	共生社会論特別演習 I	10	4.60
4	教育文化学特講	10	4.60
4	人間科学方法演習	10	4.60
5	心理療法特講	15	4.47
6	大学マネジメント論特講 I	13	4.46
7	哲学と質的研究特講	11	4.45



### 3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である。

Croydon, Silvia, Atanassova	現代社会学特講
<p>コメント</p> <p>⇒I am pleased that the students thought my course is on the difficult side, as it is good for them to feel challenged a little.</p> <p>There were four students, one of which was non-registered (research student). The abilities of these students ranged widely, with two having very good comprehension and articulation skills, and two not so. This was reflected in my evaluation of them. The weakest student in particular was quite difficult to engage with, but I did my best.</p> <p>I received good comments from two of them. They told me they would take other courses if I provide such in the future.</p>	

青野 正二	環境行動学演習 I
<p>コメント</p> <p>⇒前期に担当した演習の授業では、まず、前年度までに受講生が履修した講義科目の理解度を確認し、それを踏まえて授業を進めるようにした（例えば、講義で理解が困難だったところには多くの時間を費やした）。また、すでに学習済みの内容も含めて、適宜例題や実習などを通じて課題に取り組み、その結果をチェックすることでどのくらい理解しているのかを把握した。引き続き秋・冬学期の演習では、次年度の卒業研究を視野に入れながら、受講生が自主的に課題を見だし解決していけるよう対処していきたい。</p>	

足立 浩平	推測統計科学, 行動統計科学特定演習 I, 行動統計科学特別演習 I, 情報処理演習 II, 行動生態学実験実習 II
<p>コメント</p> <p>⇒担当科目全体についてまとめて、次にコメントします。数理科学系の分野は一見難解で、すべて理解するのは不可能なので、理解できなくてもよい部分を見出す嗅覚を持つことが大切です。</p>	

石川 真由美	社会変動論
<p>コメント</p> <p>⇒元は英語での授業であった内容を日本語で開講したので、学生の理解度を少々心配していたが、アンケートから問題がなかったことが分かった。来年度は、より高度な内容を増やしつつ、学生がより意欲的に予習・復習に取り組めるよう、インセンティブの向上を課題としたい。</p>	

稲場 圭信	共生学実験実習 II
<p>コメント</p> <p>⇒諸事情によりシラバスの通りに進まなかった部分が反省点で、次年度は改善します。結果としては、全体として良い授業 4.24 だったので、よかったと思います。</p>	

白井 伸之介	安全行動学演習Ⅰ，人間行動学実験実習Ⅱ
<p>コメント</p> <p>⇒安全行動学演習Ⅰと実験実習Ⅱについては、いずれも履修者は多くありませんが、今回は全員から回答があったので、およその傾向を掴むことが出来ました。集計結果はどの項目も評価点が高かったため、授業内容については特に問題のないことを確認できました。とは言え、予習復習の時間に関する項目の評価点が特に演習で必ずしも高くなかったため、その点について今後、検討する必要性を感じました。</p>	

遠藤 知子	比較福祉論Ⅱ
<p>コメント</p> <p>⇒学生の理解を確認するため、講義のはじめに復習をしていましたが、その時間が長すぎるとのコメントがありましたので、今後は改善していきたいと思います。講義科目ですが、一方的に話すだけではなく、学生からの質問や発言を引き出せるよう努めていきたいです。そのためのグループディスカッションの進め方についても検討します。</p>	

老松 克博	臨床心理学特別演習Ⅰ，臨床心理学特定演習Ⅰ，臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践），臨床心理学演習Ⅰ，臨床教育学実験実習Ⅱ
<p>コメント</p> <p>⇒前期は演習系，実習系の授業ばかり（臨床心理学特別演習Ⅰ，臨床心理学特定演習Ⅰ，臨床心理査定演習Ⅰ，臨床心理学演習Ⅰ，臨床教育学実験実習Ⅱ）でしたので、まとめてコメントします。これらのほとんどの科目において「予習・復習の時間」の少なさを、言い換えれば予習や復習の難しさが問題になっているようです。これらの科目、とくに大学院の科目では、実際の臨床事例を扱うことから、復習はともかくとして、予習をすることはほぼ不可能です。そのぶん、特定の科目名とは関係のない日頃の学習や経験の積み重ねが求められることとなります。臨床の現場においても予習はほぼできませんので、そのトレーニングと捉えて「ふだん」をだいにしていれば、と思います。しかし、なにかしらの予習ができる方法がないか、少し思案してみます。</p>	

岡田 千あき	生涯教育学
<p>コメント</p> <p>⇒授業改善アンケートに回答をいただきありがとうございました。数名の方からは、コメントもいただいて授業を行う励みになります。</p> <p>アンケート結果から、授業の難易度が少し低めであったように思いますので、今後、改善をしていきたいです。また、いただいたコメントについては、納得するものが多く、来年度以降に講義を行う際の参考にさせていただきます。</p>	

岡部 美香	人間科学概論，教育人間学特定演習Ⅰ(B)，教育人間学演習Ⅰ，教育人間学特別演習Ⅰ(B)，教育人間学特講Ⅱ
<p>コメント</p> <p>⇒</p> <p><b>【人間科学概論】</b></p> <p>学際的な議論に楽しく触れてもらえただけではなく、初年次教育としても機能していることがわかり嬉しく思いました。先にやり方を教えてもらい、それをただなぞって実現するだけの高校までの授業や学習とは異なる大学の授業や研究に少しでも早く慣れてもらえれば、と願います。白黒がはっきりしない、明快な一つの正解が導出されえないようなディスカッションにも、少しずつ慣れていってほしいと願っています。</p> <p><b>【その他の専門科目】</b></p> <p>少人数の授業が多かったため、やりやすかったです。ディスカッションがもう少し活発になるように工夫したいと思います。</p>	

小野田 正利	学校経営学
<p>コメント</p> <p>⇒</p> <p>1. 私自身の講義科目は、「2. 予習・復習の時間」を除いて、9項目すべてにおいて平均を上回っているので、よかったと思っている。</p> <p>2. 学系別において、「社会人間」の評価が、他に比べてやや低いのはなぜか、が気になりました。</p>	

神田 麻衣子	未来共生多言語特定演習
<p>コメント</p> <p>⇒1セメスターで、フィリピン語とベトナム語の基本表現を身につけ、多言語コミュニケーションの入り口とすることが目的だったが、コメントや設問への回答を見る限り、言語の選択にやや課題があったことを確認する結果となった。</p> <p>発音が複雑で複数の母音、そして声調を有するベトナム語は、特に日本人話者にとって「こんにちは」を言うのでさえも困難を感じさせるものだった。もちろん、そうした日本語との差異を体感することも、文化の多様性を知るうえで非常に重要である。しかしながら、本科目はリーディング・プログラムの必修科目であり、ベトナム語学習を自ら志向して受講した受講生ばかりではなかった。結果として、「ちがいを楽しむ以上に、「難しさ」の体感のほうが勝ってしまったように思う。</p> <p>来年度は、好評だったフィリピン語を基準レベルとして、その難易度にできるだけ近い言語を、ベトナム語に替えて採用したいと思っている。また、その際には授業で重要な役割を果たす、留学生 TA・アルバイトに、授業の目的や手法、達成目標などを丁寧に説明することで、ふたつの言語学習における「落差」をなくし、授業全体の質保証につなげたいと思う。</p>	

佐々木 淳	臨床心理学特講 I, 臨床心理学研究法特講
<p>コメント</p> <p>⇒アンケート結果から、「臨床心理学特講 I」「臨床心理学研究法特講」のいずれについても、当初の学習目標を達成したと考えます。より事例を含めた授業や実践的な内容となるように工夫をしていきたいと思えます。</p>	

佐藤 眞一	臨床死生学・老年行動学特別演習 I, 臨床死生学・老年行動学特定演習 I, 臨床死生学・老年行動学演習 I, 臨床死生学・老年行動学特講 I (福祉分野に関する理論と支援の展開), 人間行動学実験実習 II
<p>コメント</p> <p>⇒臨床死生学・老年行動学特講 I (福祉分野に関する理論と支援の展開) (大学院) の授業は、本年度より大学院科目となった。公認心理師資格取得に対応する科目のため、国家試験ブループリントに記載されている高齢者心理学関連項目やキーワードを含むように授業を工夫した。しかし、国試受験予定者ではない学生も多いことから、特別な資料などは準備しなかった。受験者各自で準備して欲しい。本授業は3名の教員によるオムニバス授業であったため、教員は互いに内容が重ならないように打ち合わせてから授業を行った。大学院科目であったため、受講生は少なく、アンケートへの回答者は限られた人数だったが、結果はおおむね良好の評価であり、内容的には特に問題はないと考えている。ただし、本年度も学生の予習・復習の時間が少なかった。図書で紹介やコメントペーパーへの記入等による参加型の授業の工夫をしたが、相変わらず不十分のようなので、今後はさらに改善することが必要であろう。</p> <p>実験実習や演習などの科目は受講生が数人程度なので個別対応も行なったため、特に問題は無かったようである。</p>	

篠原 一光	応用認知心理学特別演習 I, 応用認知心理学特講 I, 応用認知心理学演習 I, 人間行動学実験実習 II
<p>コメント</p> <p>⇒前期の担当科目は演習や実験実習科目であり、現在の授業の内容で問題はないと考えており、アンケート結果からも特に問題があるようには見受けられない。これらの科目については実習内容の見直しなどは随時行うが、今後も基本的に従前どおりの内容で続けていこうと考えている。</p>	

管生 聖子	臨床心理学Ⅱ
<p>コメント</p> <p>⇒アンケートにご協力くださった皆さん、ありがとうございました。</p> <p>臨床心理学Ⅱ受講者は講義に積極的に臨んでおり学習意欲の高さが感じられました。また受講者のプレゼンテーションについても各々が工夫し、よくまとめ発表できていたと思います。今後はディスカッションも一層活発になるようファシリテートしたいと思います。</p> <p>授業内容について、データを見る限りでは評価頂いているようなので安心すると同時に、受講者の能力の高さに感心しています。</p> <p>課題としては、予習復習にあてた平均時間が挙げられますので、何らかの工夫を検討したいと思います。</p>	

澤村 信英	国際協力学演習Ⅰ, 国際協力学特定演習Ⅰ, 国際協力学特別演習Ⅰ, 共生学実験実習Ⅱ
<p>コメント</p> <p>⇒今回のアンケート対象科目は、演習・実験実習であり、学生側の授業に対する取り組みや努力にも支えられていると認識している。学部の授業に関しては、卒業研究に向けて段階的に準備ができるよう工夫してきた。</p>	

高田 一宏	コミュニティ教育学特講, 教育文化学特定演習Ⅰ, 現代日本の教育問題, 教育文化学演習Ⅰ, 教育環境学実験実習Ⅱ
<p>コメント</p> <p>⇒アンケートを実施した5科目のすべてで、自由記述はなかった。各質問の回答の得点は全体平均とほぼ同じだが、「現代日本の教育問題」以外の科目は履修者が非常に少なかった（最少は5人、最多は11人）ので、数量的な評価は難しい。</p> <p>「現代日本の教育問題」は、履修登録136人に対して回答が32人とどまった。この授業は、例年、授業の後半になると出席率が下がる傾向にある。オムニバス形式の授業であること、他学部にも提供していることもあって、授業のねらいや内容の水準を絞りにくい面がある。授業担当者と一緒に今後のあり方を検討したい。</p>	

中井 宏	産業心理学, 心理学実験
<p>コメント</p> <p>⇒「産業心理学」</p> <p>扱うトピックが多すぎるとの感想がある反面、講義した量が授業外での学習時間には繋がっていないので、次年度以降は、実際の作業場面と講義内容の結びつきについて文献やweb資料を基にレポートを課すなどを検討したい。その一方、扱う内容については取捨選択しようと思う。</p> <p>「心理学実験」</p> <p>難易度が高かったようだが、5本のテーマによっても異なると考えられる。順番や内容は次年度以降の検討課題としたい。また、レポート添削方法（特にフィードバックを与えての書き直し）については、最初のレポートや2本目のレポートを手厚くし、後半のテーマでは自力で完成度の高いレポートを完成させられるよう、TA・TFの配分を工夫したい。</p>	

中澤 渉	教育社会学, 英語による国際コミュニケーションⅠ-A, 英語による国際コミュニケーションⅡ-A, 教育環境学実験実習Ⅱ
<p>コメント</p> <p>⇒特にこれといって目立った記述はなく、概ね高い評価をいただいたと思う。</p>	

中野 良彦	生物人類学特講 I, 生物人類学特定演習 I, 行動形態学, 行動形態学演習
<p>コメント</p> <p>⇒行動形態学の講義について、今年度は例年と比べて、学生の出席状況も授業態度も非常によく、予定した内容をスムーズに進めることが出来た。</p> <p>内容的には、どうしても生物学あるいは解剖学的な専門的な部分が多くなってしまうので、生物関連研究室以外の学生にはどれほど興味をもち理解できたのか難しい課題である。ただ、テストの結果を見る限り、想定以上以上に理解されていたと考える。</p> <p>他の授業は、受講者が少なくコメントは難しい。</p>	

西森 年寿	教育工学Ⅱ, 教育工学演習Ⅰ, 教育工学特講Ⅰ, 教育工学特定演習Ⅰ, 教育工学特別演習Ⅰ, 臨床教育学実験実習Ⅱ
<p>コメント</p> <p>⇒今年から大学院の講義を、大学院生のみを対象として開講しました。不慣れで、いろいろと迷惑をかけたと思います。アンケートの回答まで付き合っていたいただいた受講生みなさんに感謝します。いただいた評価で、内容を見直すようにしたいと思います。</p> <p>全般にわたって、資料作成等について建設的なコメントもいただきました。助かります。</p>	

入戸野 宏	認知心理生理学, 基礎心理学演習Ⅰ, 自然科学と人間科学, 基礎心理学特講Ⅰ, 基礎心理学特定演習Ⅰ, 人間行動学実験実習Ⅱ
<p>コメント</p> <p>⇒昨年度の授業改善アンケートの結果を受けて、学部講義科目の実施方法を見直した。生理学・神経科学の初修者が多いため、毎回 KOAN で小テストを実施するようにした。その結果、「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていきましたか？」という設問に対する得点は 4.15 で、全体平均 (4.12) を上回った。しかし、授業内容の難易度と理解できた程度についての評価は高くなかった。「全体として良い授業だったと思いますか？」という設問で「そう思わない」と答えた人は一人もいなかったが、もう少しレベルを落とした授業にする方がよいかもかもしれない。大学院の講義科目は今年度から開講したが、授業全体についての評価は 4.67 (平均 4.24) と高く、効果的に実施できたといえる。また、演習や実験実習についても、ほとんどの設問で平均点を超えており、特に問題はない。</p>	

野坂 祐子	教育心理学Ⅱ, 臨床教育学実験実習Ⅱ
<p>コメント</p> <p>⇒課題や宿題に熱心に取り組まれた様子が見え、よかったです。授業の難易度については、所属の学系や分野によっても異なるかと思います。さらに学びたい場合は、積極的に関連書籍や論文を読むなどして、学習を深めていくことを期待します。</p>	

野尻 英一	比較文明学特定演習Ⅰ, 比較文明学特別演習Ⅰ, 比較文明学
<p>コメント</p> <p>⇒昨年、大阪大学に赴任しました。授業の運営方式、出席の評価の仕方、休講や補講について、大阪大学には独特の文化があり、学生のみなさんもそれにしがたがった教員への期待があることに気付かされつつあります。これもアンケートで率直に指摘をしていただいたおかげです。今後とも授業ではこちらの意図を理解してもらえるよう、なるべく整った説明ができるようにしたいと思います。</p>	

野村 晴夫	臨床心理面接特講Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)
<p>コメント</p> <p>⇒ おおむね及第点を頂いているようですが、授業時間外の課題の充実ほか、さらなる改善に努めます。</p>	

檜垣 立哉	共生の人間学演習 I, 共生学実験実習 II
コメント ⇒演習授業であり、特段の意見なしということであったので今後とも肅々とがんばります。	

三浦 麻子	集団力学, 社会心理学特定演習 I, 社会心理学特別演習 I, 社会心理学特講 I, 社会心理学演習 I, 人間行動学実験実習 II
コメント ⇒大阪大学に着任して最初の学期（正確には助手や非常勤講師の経験はありますが）の授業なので、受講生の様子を見ながら前任校で行っていた内容やペースを調整するのにしばらく時間を要しました。そのため、受講生にはいささか迷惑をかけたことがあったかもしれませんが、講義科目では、本アンケート以外にも、毎回リアクションペーパーの提出を求めており、必ず翌週にそれに対するフィードバックの時間を設けています。つまり、学生からの要望や質問にはなるべく速やかに適切な対応・回答ができるように努めており、今後もそうするつもりです。	

三好 恵真子	環境行動学特講 I, 環境行動学特定演習 I, 環境行動学特別演習 I, 環境行動学演習 I, 人間行動学実験実習 II
コメント ⇒【環境行動学特講 I】 本講義は、大学院単独科目としてはじめて開講するもので、専門分野の違う学生さんにとっても魅力的なものになるよう、内容についてもそれなりに時間を掛けながら検討して参りました。受講者は少なめでしたが、出席率も総合評価も満点を頂けており、皆様のおかげでこうして実りある授業となったことに感謝しております。 私自身はもともと自然科学系でしたが、20 数年前より環境問題に取り組むようになり、現在展開している実践志向型（課題解決型）の地域研究における方法論について、身をもって体感した経験なども踏まえつつ、具体的に述べられたことが結果的によかったですと感じました。さらに、学際研究者として第一線で活躍する若手研究者 6 名をゲストスピーカーとしてお招きしたことが、大変貴重な機会となり、皆さんにとっても刺激的だったのではないかと思います。最後に、それぞれが共同研究に関する立案をし、発表し合いましたが、私自身も沢山のことを学ばせて頂きました。受講者の皆様それぞれにこれから魅力的な研究を遂行されることを祈念しつつ、本講義が役立てば幸いです。  【環境行動学特定（特別）演習 I】 本演習は、受講者各人の発表に際し事前に発表原稿を ML で回覧し、またそれぞれにコメンテーターを付ける方式で行ってきました。皆様が予習に掛ける時間は大変だったかもしれませんが、議論が深まり全体として良かったのではないかと思います。事前資料に関して、論文を意識し、結論を導くことを急ぎすぎてしまい、まとめ方への課題が見えてきたものが少なくありませんでした。研究の進捗状況を発表することにより、より良い議論が展開できるよう、発表の仕方にも今一度工夫をして頂けるとさらに良くなると思います。お疲れ様でした。  【環境行動学演習 I】 【環境行動学実験実習】 本演習、実験実習では、カオス解析など環境行動学の研究で用いられる実験手法を学んだり、またそれぞれの興味関心に照らし合わせながら文献講読を行っていく形を取りました。課題探求能力を養い、論文作成につながる基礎的技術を習得し、理解を深めるものです。文献講読は、毎回読み込んで概要をまとめてくるのが大変だったと思いますが、充分理解されていて、感心しました。また TA の院生さんがコメンテーターをしてくれて、議論が深まり、環境行動学として、フィールドに出て大切にすべき事柄を相互に共有できたのではないかと思います。引き続きミニ卒作成も楽しみにしております。	

牟田 和恵	コミュニケーション社会学特定演習 I, コミュニケーション社会学特別演習 I
コメント ⇒ いずれも演習科目で受講者数およびアンケート回答者数は多くないものの、授業満足度はおおむね高かった。今後とも充実した授業ができるように努力したい。	

村上 靖彦	現代人間学演習Ⅱ, 哲学と質的研究特講, 人文学と人間科学, 現代人間学実験実習Ⅱ
<p>コメント</p> <p>⇒とくに人文学と人間科学について。</p> <p>いくつか改善点の指摘をいただきました。資料、テスト、グループワークについて来年度は工夫していきたいと思いません。</p>	

森田 邦久	科学哲学特講, 科学哲学特定演習Ⅰ, 科学哲学特別演習Ⅰ, 現代人間学演習Ⅰ
<p>コメント</p> <p>⇒演習については、現状維持を希望する学生が多いので、授業方法としては現状維持を続ける。</p> <p>ただし、もう少し教員のコメントを控えて学生間の議論を増やすようにしたい。</p> <p>講義は、学生同士の議論をしたかったという意見があったので、なるべく一方的な講義だけで終わるのではなく、少し早めに講義を終了して学生同士の議論を促すようにしたい。</p>	

安元 佐織	人間科学特殊講義Ⅲ
<p>コメント</p> <p>⇒ 抽象的な概念を英語で学ぶという挑戦的な授業だったと思いますが、受講生の皆さんが真剣に取り組んでくれたこともあり、私自身も学びが多い授業になりました。受講生の皆さんに感謝しています。</p>	

山中 浩司	文化社会学
<p>コメント</p> <p>⇒「文化社会学」の授業評価アンケートについてのコメントです。全体としてはほぼ講義科目の平均に近く、意見要望もなかったため、基本的な内容や授業の方法を来年度変更することは考えていない。ただし、予習・復習にあてる時間は講義としても少ないので、この点のみ改善の必要を感じる。時間の関係で、ポートフォリオシートの記入へのフィードバックがほとんどできなかったことは反省している。学生とのコミュニケーションも、特定の学生とのやりとりに偏りがちになることも工夫が必要と考える。</p>	

吉川 徹	人間科学基礎実習, 社会環境学実験実習Ⅱ
<p>コメント</p> <p>⇒いただいた評価、ご意見や感想については大変感謝している。今後の授業の参考にしたい。</p>	

2019年度人間科学研究科／人間科学部  
 春夏学期授業改善アンケート回答結果  
 計35名分